



【柑橘】*下線部は重要防除です。必ず防除しましょう。

【温州みかん】

収穫 丁寧な収穫作業と貯蔵の管理を徹底しましょう。

貯蔵みかんの品質のバラつきをなくすため、果実の着色状況に応じて、2回以上に分けて収穫しましょう。

収穫適期を逃して、浮皮果にならないように注意して下さい。

※収穫の目安 ○大津四号 → 完全着色
 ○青島温州 → 8分色以上

果実管理

通常予措：コンテナ8分目ほどに軽く入れて、通気の良い貯蔵庫下屋等で10～15日間乾燥した空気にさらします。総量の5%程度の減量(しおれ)が目安です。(果皮がややしなびて弾力を持つ程度)

高温予措：着色促進と減酸を目的に、収穫直後に20℃で7日間果実を保温しておく。果実の傷からくる腐れが早いので、再度選果をしてから貯蔵・出荷をしましょう。

貯蔵

予措終了後、温度3～5℃・相対湿度85%を目安に貯蔵します。朝夕の換気と定期的に点検で腐敗果を取り除きましょう。また、0℃付近になると低温障害をおこすので、寒波時は貯蔵庫を密閉しましょう。

病害虫防除等 収穫後の12月下旬～1月中旬(厳寒期の散布は避けましょう)

○カシガニ アタックオイル 60倍 1.66ℓ/水100ℓ

又は

○ヤシガラ油 ハーベストオイル 60倍 1.66ℓ/水100ℓ

* 散布量は10aあたり500～600ℓを目安に、たっぷり散布しましょう。
(病害虫多発生の主な原因は、密植と薬剤のかけムラです。)

【中晩柑】

防寒・鳥害対策のため、袋かけやネット被覆を実施しましょう。園地や品種により差がありますが、1月中旬までには終了するように作業しましょう

【うめ】

冬季剪定 11月～12月

縮間伐と骨格作りを重視して主枝を配置し、内向枝・平行枝等の切除をします。

※ツボミを傷めないように、年内にノコギリ剪定(太い枝の処理)を終了させましょう。

1月下旬までに細部の剪定作業(整枝・剪定)を終えましょう。1年枝は全部取らず横から出ている弱い枝は残しておきましょう。

病害虫防除 12月下旬～1月上旬(開花前)

○カイガラムシ類・越冬病害虫 石灰硫黄合剤 7倍 14.2ℓ/水100ℓ

12月～1月上旬(落葉後～萌芽前)

○コスカシバ ガットキラール剤 100倍 休眠期(落葉後～萌芽前) 2回 1ℓ/水100ℓ

※樹冠部及び主枝に散布

【キウイフルーツ】

整枝剪定 12月下旬～2月上旬(樹液の流動が始まる前に終了しましょう。)

一文字整枝を基本に亜主枝は2～3m間隔で配置します。高樹齢樹は樹がいたむため亜主枝の更新は避けましょう。古い亜主枝でも葉数を確保し維持しましょう。

古い側枝(結果母枝)は先追いしないよう、亜主枝、主枝に近づける、切り戻し更新を行いましょ

う。結果母枝は、充実した新梢と本年の結果枝を併用し配置します。春の風害を想定し、やや多めに残しましょ

病害虫防除 11月下旬～12月中旬

○かいよう病 I Cボルドー66D 50倍 2kg / 水 100ℓ

土壌管理 11月～2月

土壌改良剤として、苦土石灰の施用をしましょう。 100kg～200kg / 10a

【水 稲】

土づくり

水稲が健全に生育するために、「堆肥・ワラ等」の有機物やケイカル等の土壌改良剤を計画的に施し、地力を増進する必要があります。

○有機物の施用

ワラの場合 収穫後年内までに全体に広げ、深耕(15センチ以上)しておきましょう。

完熟堆肥の場合 10月から2月に全体に施し深耕しておきましょう。(500～1,000kg/10a)

○土壌改良剤の施用 ケイカル 100kg/10a 又は ようりん 2～4袋/10a 等

雑草防除 冬季にできる水田の雑草防除

冬季に耕耘することにより除草効果を期待することができます。多年生雑草の塊茎や根茎は低温や乾燥に弱いので、冬季の耕耘が防除に有効です。特にミスガヤツリ・クログワイ・オモダカなどの多い水田では反転耕により凍結枯死させられるので除草効果が高くなります。耕耘作業は年内までに一度は必ず行いましょう。

スクミリンゴガイ対策

管内でスクミリンゴガイ(別名:ジャンボタニシ)の発生が確認されております。発生した水田では耕耘を行い、貝を傷つけ越冬させないようにしましょう。

農薬を使用する際は、適用作物・希釈倍数・使用回数・使用方法等の使用基準を遵守するとともに飛散防止に努め、ラベルをよく確認し、必ずラベルに基づいて使用しましょう。

~~~~~お知らせ~~~~~

成田営農経済センター一年末年始営業のご案内

～令和4年12月29日(木) 通常営業  
令和4年12月30日(金) 午後1時まで営業  
令和4年12月31日(土)～令和5年1月3日(火) 休業日  
令和5年1月4日(水)～ 通常営業

| 日           | 月             | 火             | 水             | 木             | 金               | 土           |
|-------------|---------------|---------------|---------------|---------------|-----------------|-------------|
| 12/25<br>休業 | 12/26<br>通常営業 | 12/27<br>通常営業 | 12/28<br>通常営業 | 12/29<br>通常営業 | 12/30<br>午後1時まで | 12/31<br>休業 |
| 1/1<br>休業   | 1/2<br>休業     | 1/3<br>休業     | 1/4<br>通常営業   | 1/5<br>通常営業   | 1/6<br>通常営業     | 1/7<br>通常営業 |

農薬登録の変更について

①ロブルール剤の登録変更

【対象品目】

ロブルール水和剤・ロブルール500アクア・ロブルールくん煙剤、ロブドロー水和剤

令和4年12月より登録変更となります。これ以降は旧品がなくなり次第新ラベル品で供給されます。流通在庫については「ラベル主義」となりますので、ラベルの表示に従ってご使用ください。登録変更により、「ロブルール水和剤」は「かんきつ」での使用不可となります。他にも削除された品目がありますので、新ラベル品を購入された際は、表示をよく確認しご使用ください。

②ベルコートフロアブルおよび水和剤の登録変更

ベルコートフロアブル：「だいず」の削除

ベルコート水和剤：「だいず」「てんさい」「小麦」の削除

令和4年10月26日より変更。流通在庫については「ラベル主義」となりますので、ラベルの表示に従ってご使用ください。新ラベル品を購入された際は、表示をよく確認しご使用ください。

※変更内容の詳細については最寄りの営農経済センターへお問合せください。

【お願い】 農薬は適正に使用しましょう！！

県内農産物において、農薬残留基準値超過事案が発生しています。（当JA管内ではありません。）定められた使用基準を守らない場合は「農薬取締法違反」となりますので、ラベルをよく確認し使用方法を守り生産履歴の記帳に努め安心安全な農産物の生産をお願いいたします。

～農薬事故はこうして起こる！発生事例～

○収去（食品衛生監視員が検査の為採取）した作物から適用のない農薬を検出（残留基準値超過）

→当該の作物には直接散布していないが、前日に他の作物に使用した散布器を洗浄不足のまま使用した。（ホースは洗浄するが、タンクを洗う習慣がなかった。）

→当該の作物には直接散布していないが、隣接する他の作物に散布した農薬が飛散（ドリフト）した。

上記のようなことが原因となり農薬事故が起こります。農薬の登録を守って使用することはもちろん、散布器具の洗浄は念入りに、ドリフトには十分注意しましょう。同じ畑で複数の作物を栽培している場合や、圃場同士の距離が近い場合などはさらにドリフトの注意が必要です。

## 水稲栽培講習会の開催について ～来年に向け準備を！～

下記のとおり講習会を開催いたします。ぜひご参加ください。

### 1. 日時・会場

| 日付        | 時間    | 会場                           |
|-----------|-------|------------------------------|
| 12月23日(金) | 10:00 | 開成事業所3階 大会議室<br>(開成町吉田島2000) |
|           | 14:00 | 本店3階 第2・第3会議室<br>(小田原市鴨宮627) |

2. 対象者 JA かながわ西湘管内組合員(水稲栽培者)

3. 内容 (予定 全日程共通)

①来年の栽培に向けて ②病害虫・雑草防除について③その他

※新型コロナウイルス感染拡大防止につき、長時間の密集を防ぐため講習時間は1時間程度とさせていただきます。また、発熱や風邪の症状がある方は参加をお控えください。

4. 講師 農業技術センター

5. 申込 12/16(金)までに営農部営農指導課または最寄りの支店・センターまでお申込みください。  
※全日程同じ内容ですので、希望する日程にご参加ください。

(お問合せ)

J A かながわ西湘営農部営農指導課

TEL : 0465-46-6950

## ～土壌診断しませんか？～

作物を正常に生育させるためには、土壌中の養分状態を作物の要求する量に調節するとともに、他の成分とのバランスをとらなければなりません。そのためには、土壌の不足する養分と過剰な養分を把握する「**土壌診断**」が必要です。

より良い作物を栽培するために当JAでは土壌診断を推奨しています。

料金：1 サンプルにつき 632 円(税込)

結果通知：サンプル提出後約1か月後(混雑状況により遅くなる場合もあります)

土壌診断の適正な実施時期は基本的に作付前(施肥前)または、収穫後になります。

サンプル袋は成田営農経済センターにてお渡しします。

ご不明な点等は成田営農経済センターまでお問合せください。

TEL : 38-0131